

エコ燃料実用化地域システム実証事業費（エネ特会）

2, 300百万円（2, 780百万円）

地球環境局地球温暖化対策課

1. 事業の概要

エコ燃料（バイオマス由来燃料）の普及を加速化させるため、地域のバイオマス資源を活用したエコ燃料の生産・利用の拠点づくりを支援するとともに、大都市圏や沖縄等での大規模導入を実現するため、実用化段階に近い規模で、自立的なエコ燃料生産・利用システムの成立を実証する。また、バイオエタノールの我が国への輸入及びバイオエタノール 3%混合ガソリン(E3)の供給事業の事業可能性を調査する。

2. 事業計画

(1) エコ燃料生産・利用推進地域計画の策定

地域が主体となってバイオマス資源を活用したバイオエタノールなどの生産・利用の拠点づくりを行うための「エコ燃料生産・利用推進地域計画」を策定する地方公共団体などを支援する。

(2) エコ燃料生産・利用実用化地域システム実証事業

E3の生産・利用の実用化を目指す大都市圏、並びに地域のバイオマスを活用したエコ燃料の生産・利用を図る沖縄などにおいて、実用化段階に近い規模で、自立的なエコ燃料生産・利用システムの成立を実証する。

(3) 輸入バイオエタノール導入事業可能性調査

エタノールを輸入し、我が国でE3製造・供給を行う事業に関し、必要な設備（備蓄設備、荷揚げ設備等）の整備計画等を立案し、事業可能性を検討する。

3. 施策の効果

全国で第一約束期間中に3～4万キロリットル程度の国産エコ燃料の普及を目指す。大都市圏における E3 の大規模導入を図るとともに、沖縄県宮古島では島内のガソリン需要全量を E3 化することを目指す。

4. 備考

委託費

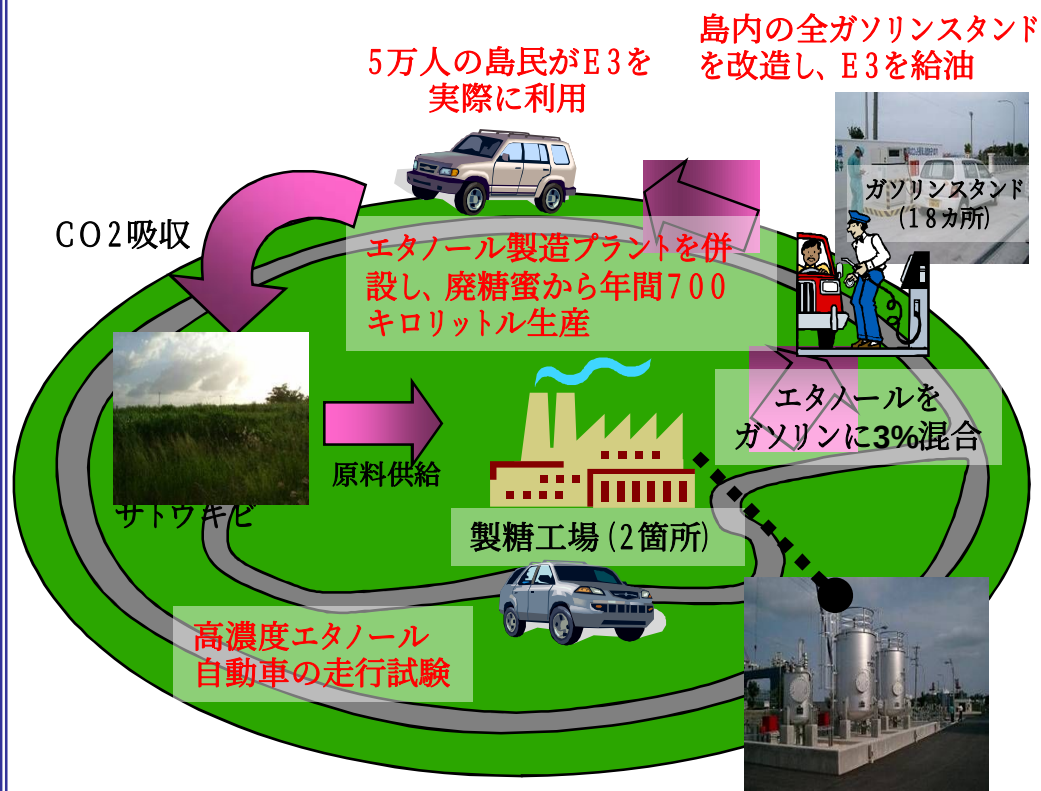
2, 300百万円

エコ燃料実用化地域システム実証事業 (エネ特会)

○経済成長戦略大綱に位置づけられた、バイオマスエネルギーの導入加速化に関する施策を強力に推進

○脱化石燃料社会への第1歩であり、自動車を保有する国民誰もが参加出来るバイオエタノール等の輸送用エコ燃料の大規模導入により、温暖化対策と国民の意識改革を促進。

宮古島「バイオエタノール・アイランド」構想



大都市型E3大規模実証事業の展開 (関東圏・近畿圏においてE3の大規模供給を具体化)

